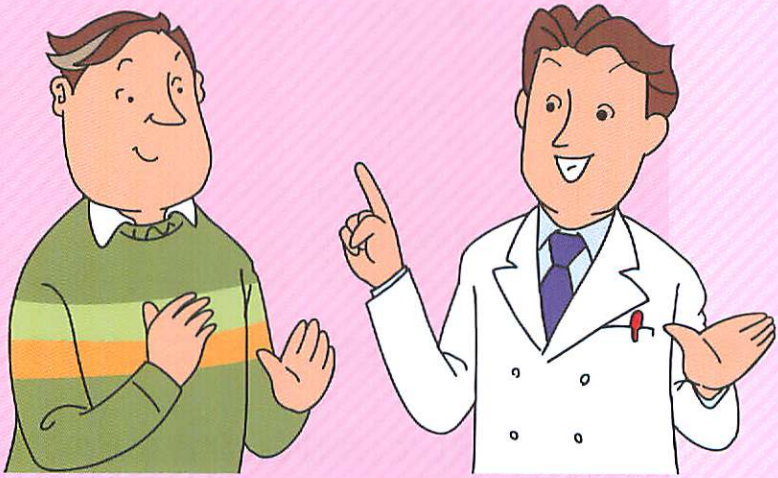
スーグラ®錠

25mg, 50mgを服薬される患者さんへ

監修
永寿総合病院 糖尿病臨床研究センター長
渥美 義仁 先生



スーグラ®錠25mg、50mgは、腎臓に作用することで2型糖尿病で上昇した血糖値を低下させるお薬です。食事療法、運動療法の指示を守り、用法・用量にしたがって服薬することが大切なお薬です。副作用をできるだけ抑えて効果を最大限に引き出すため、患者さんご自身にご注意いただきたいことがあります。
この冊子をよく読んで、正しく服薬してください。

スーグラ®錠による治療ができない場合があります。

以下に該当する方は、医師または薬剤師にお申し出ください。

● 脱水を起こしやすい。

- 他の病気の影響などで、水分をあまりとれない方
- 利尿剤を服薬している方
- 血糖値が非常に高い方
- のどの渇きを感じにくい方
- 下痢・嘔吐をくり返したり、食欲不振で食事や水分を摂取できない状態が続いている方

● 脳梗塞など血栓・塞栓症になったことがある。

● 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。

● 尿検査や血液検査でケトン体※の異常がみられたことがある、重度の高血糖や低血糖症状で意識を失ったことがある。

※ ケトン体：エネルギーが不足したり、血液中のインスリンが極端に減少したときに、体内で増える酸性の物質です。

- 栄養不良、食事量が足りていない、衰弱している。
- 激しい運動をしている。
- お酒を大量に飲んでいる。
- 腎機能障害、感染症、脳下垂体異常、副腎疾患、重度の肝機能障害などがある。
- 手術の予定がある、または手術後である、外傷がある。
- 妊娠の予定がある。
  （現在、妊娠または授乳中の方は、スーグラ®錠での治療ができません。）
- 他のお薬を使っている。
  （お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性があるので、一般用医薬品や栄養補助剤なども含めて、他のお薬を服用の際は医師・薬剤師にお申し出ください。）

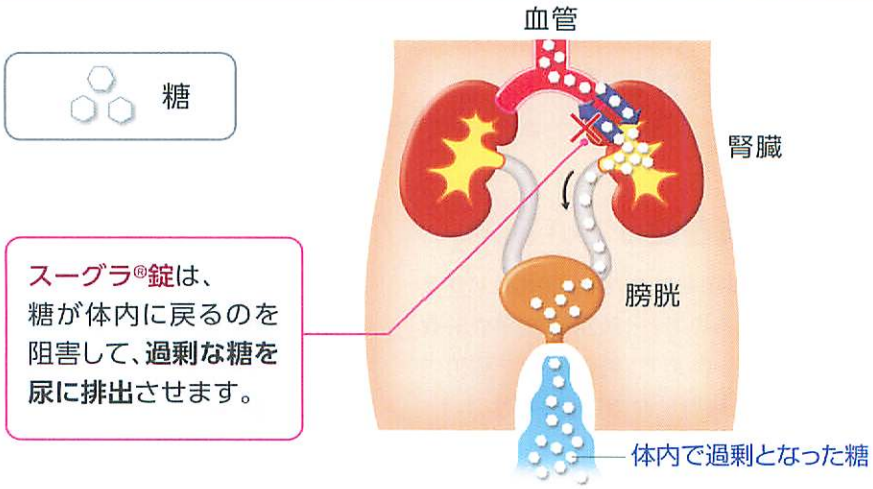
スーグラ®錠の作用

腎臓で尿が作られるとき、原尿（尿のもと）は腎臓で体内に戻す栄養分と、尿に出す老廃物に分けられます。このとき、糖の多くが栄養分として再び体内に戻されますが（糖の再吸収*）、糖尿病の患者さんでは血糖値が高いため、糖が尿に漏れ出てきます。

*：このとき、糖はSGLT2（エス・ジー・エル・ティー・ツー）というたんぱく質を通る必要があります。SGLT2は、腎臓で糖を体内に戻す役割（糖の再吸収）を担っています。
SGLT2：sodium glucose co-transporter 2（Na^+/グルコース共輸送担体2）

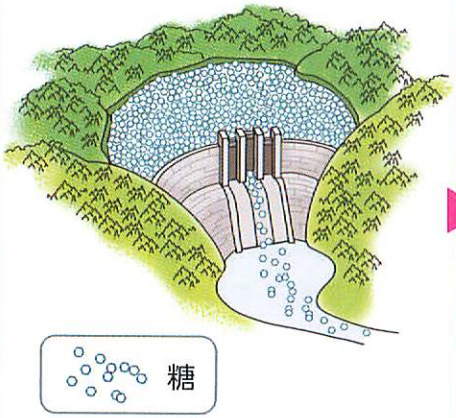
スーグラ®錠は、SGLT2のはたらきを阻害して、腎臓で糖が体内へ戻る量を少なくし、過剰な糖を尿に排出することで血糖値を下げるお薬です。

スーグラ®錠は、
糖の再吸収を阻害して過剰な糖を尿といっしょに排出させることで、
血液中の糖を減らします。



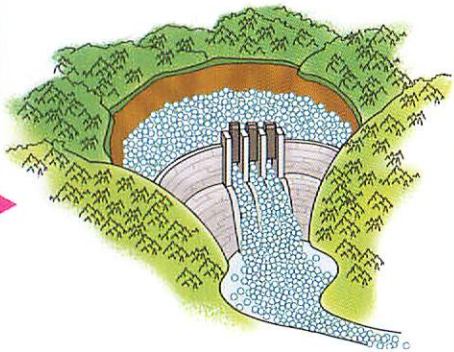
スーグラ®錠を服薬した場合の糖排出のイメージ図

服薬前



血糖値が高い糖尿病患者さんでは、体内で過剰となった糖が尿に漏れ出てきます。

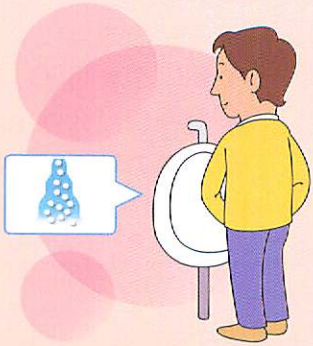
スーグラ®錠を服薬した場合



このお薬を飲むと、ダムのゲートを開くように体内の過剰な糖が尿といっしょに排出され、血糖値が下がります。

糖が排出されるとき、より多くの水分が尿として出ていくため、このお薬の服薬中に注意すべき副作用があります。

(注意点についてはp5～12をご参照ください)



スーグラ®錠の服薬中に、注意していただきたいこと

■ 脱水にご注意ください。

脱水にならないように、スーグラ®錠の服薬中はお薬を飲む前よりも多めに水分をとりましょう。

お薬の作用により、排尿の回数が増えたり、尿の量が増えたりすることがあります。
そのため、いつもより多く体から水分が出てしまうので、脱水症状を起こすおそれがあります。その分、多めに水分をとることが大切です。
決して自分の判断で水分をとることを止めたり、量を減らさないようにしてください。

以下の場合は、とりわけ注意が必要です。特に意識して水分補給を行いましょう。

- 高齢の方
- 利尿剤を服薬している方
- 血糖値が非常に高い方
- お薬の効果が出始める飲み始めの時期
- 汗をかいて水分を失いやすい夏場

があります(5〜12ページ)。

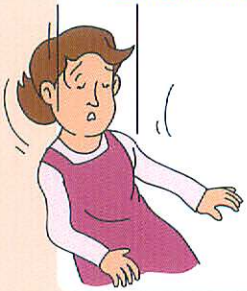
脱水の症状

お薬の作用により、以下のような症状がみられることがあります。

- **トイレの回数が多い**
- **尿の量が多い**
- **のどが渇く、口が渇く**
- **体の疲労感**
- **めまい・ふらつき**
  (血圧低下)
- **お薬の飲み始めに急激に体重が減少する**
  (体内の水分が急激に減少している可能性があります。)

脱水は程度が重いと、より重大な疾患を招くことがありますので、このような症状を感じたら医師に相談してください。

低血糖の症状に注意してください。



スーグラ®錠は、他の血糖降下薬と同様に低血糖を起こす可能性があります。
国内で実施した臨床試験では発現頻度は低いことが報告されていますが、他の血糖降下薬とスーグラ®錠を併用する方は、特に注意してください。

低血糖になりやすい時

- 薬を多く飲みすぎたとき。
- お薬を飲むタイミングを間違えたとき。
- お薬の種類や組み合わせを間違えたとき。
- 食事を抜いたり、時間がずれたり、量が少なかったとき。
- 激しい運動をしたとき。
- 大量のアルコールを飲んだとき。
- 病気や怪我による食欲不振、嘔吐など、通常の食事がとれないとき。

※高所での作業・運転中の低血糖は事故のもとになりますので、特に注意してください。

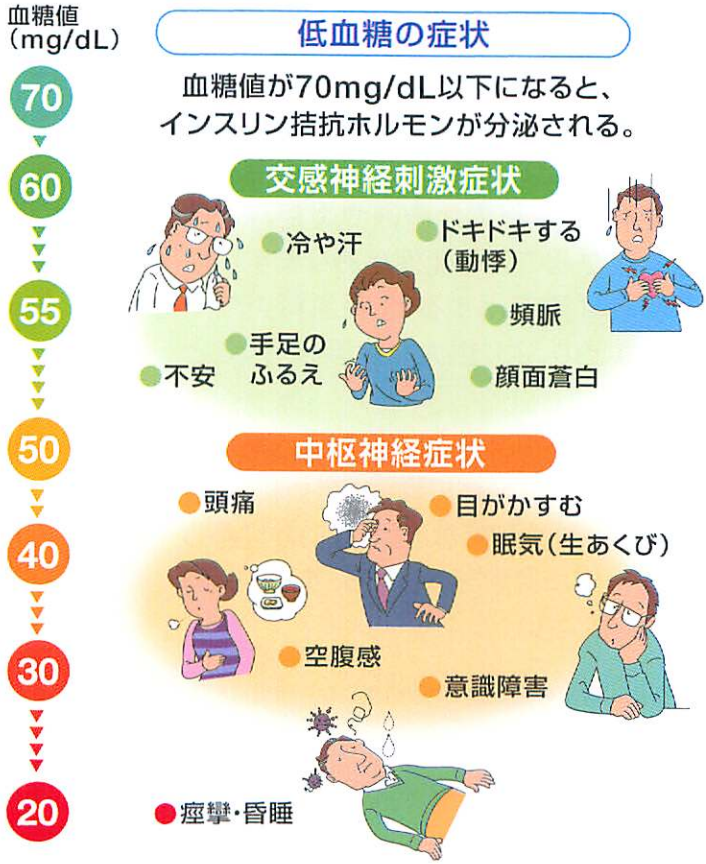
低血糖症状への対処

低血糖症状がおきたら、すぐにブドウ糖5～10gを飲んでください。ブドウ糖がない時には、砂糖を10～20g、またはジュースなどの糖分を多く含む飲み物を飲んでください。
周囲の人にも、低血糖症状がおきた場合の対処について知らせておきましょう。

! α-グルコシダーゼ阻害薬を服薬している場合には、必ずブドウ糖を飲んでください。

低血糖の症状

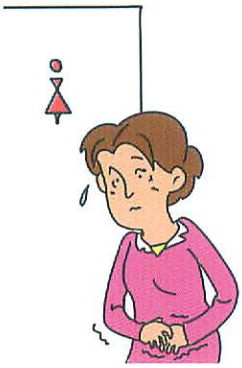
血糖値が低くなると、ドキドキしたり、冷や汗が出る、手足がふるえる、顔面が蒼白になるなどの症状があらわれます。
さらに血糖値が下がると、頭痛、目がかすむ、眠気、空腹感があらわれ、さらにひどくなると意識障害や痙攣(けいれん)・昏睡となります。
低血糖症状が軽い時に対処することが大切です。



■ 尿路感染症、性器感染症などの感染症予防のため、体を清潔に保ち、尿や体に異常を感じたら、すぐに医師に相談しましょう。

尿路感染症は重症化すると、より重大な疾患を招くことがあり、注意が必要です。

スーグラ®錠の服薬中は、腎臓から糖が尿といっしょに排出されるため、膀胱炎などの尿路感染症や、陰部のかゆみや炎症などの性器感染症が起こる可能性があります。
尿路感染症は重症化すると、腎盂腎炎※1や敗血症※2などの、より重大な疾患を招くことがあります。
このお薬を服薬中は、毎日お風呂に入るなど体を清潔に保ち、尿や体に異常(頻尿・排尿痛・陰部のかゆみや違和感など)がないか注意してください。何か異常を感じたら、すぐに医師に相談してください。



※1 腎盂腎炎：腎臓の感染症で、尿路感染から腎臓に細菌が広がって引き起こされることがあります。
※2 敗血症：細菌感染が全身に広がって生じる炎症状態です。肺や腎臓・肝臓などの臓器不全やショック(血圧の低下)を引き起こすことがあります。

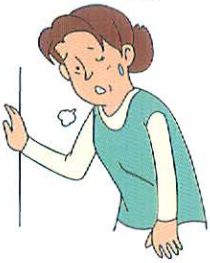
■ 発疹や蕁麻疹などがみられることがあります。

皮膚に何か異常を感じたら、医師に早めに相談してください。

■ 体重の減少がみられることがあります。

スーグラ®錠は、糖を尿に排出させるため、体重の減少がみられることがあります。国内で実施した臨床試験では、服薬開始後4週目以降におおむね1～2kg前後の体重減少が認められています。

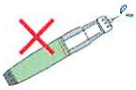
吐き気・嘔吐、食欲減退、腹痛、異常な口の渇き、体の疲労感、呼吸困難、意識がもうろうとする、などの症状がみられた場合は、すぐに医師に申し出ましょう。



お薬の作用により、体内のケトン体※1が増加することがあります。ケトン体の増加が過度な場合、血液が酸性になり過ぎて、より重大な疾患であるケトアシドーシスに至ることがあります。
ケトアシドーシスの初期症状として吐き気・嘔吐、食欲減退、腹痛、異常な口の渇き、体の疲労感、呼吸困難、意識がもうろうとする、などの症状を伴うことがあります。そのような症状を感じたら、すぐに医師に相談してください。

以下のような方ではケトアシドーシスになりやすいので、該当する場合は医師に申し出ましょう。

- インスリンの分泌が少ないといわれた
- インスリン製剤を減量した／中止した
- 厳しい糖質制限を行っている
- 体調不良などで食事をとれない状態が続いている
- 感染症※2を起こしている
- 脱水を起こしている
  (脱水の症状についてはp6をご参照ください)



※1 ケトン体：エネルギーが不足したり、血液中のインスリンが極端に減少したときに、体内で増える酸性の物質です。

※2 感染症：ウイルスや細菌が体内で増殖することによって起こります。症状として発熱、下痢、咳などを伴うことがあります。尿路感染症・性器感染症についてはp9をご参照ください。

■ 食事療法、運動療法は、医師の指示に従ってください。

スーグラ®錠は、血液中の過剰な糖を尿といっしょに排出させるお薬です。
そのため、服薬中に不規則な食事や過度の食事制限、激しい運動を行うと、過剰な体重減少や低血糖を起こす可能性があり、危険です。
また、厳しい糖質制限は体内のケトン体を過度に増加させてしまうことがあります。食事療法は医師・栄養士とよく相談して取り組みましょう。
(ケトン体の増加についての詳細はp11をご参照ください)

■ 尿糖検査、1,5-AG※の検査では、正しい評価ができません。

このお薬を服薬中は、尿糖検査の結果が「陽性」を示します。
また、1,5-AGの検査では、尿糖の影響を受けて値が変動します。

尿糖検査

お薬の作用により、これらの検査では血糖コントロールが良好なときでも糖尿病の状態を評価することができませんので、ご注意ください。

※：1,5-AG検査(1,5-アンヒドログルシトール)は、過去数日～1週間の血糖値の変化がわかる検査です。

1,5-AG検査

■ 腎機能に障害のある方では、スーグラ®錠の効果が弱まることがあります。

糖尿病の治療中に腎機能の障害が中等度以上に進んだ方では、スーグラ®錠の効果が弱まることがあります。服薬中は血糖コントロールの状態に注意してください。また、腎機能の障害の程度を確認するため、定期的に検査を受けるなど注意を払いましょう。

スーグラ®錠を服薬する際の注意

スーグラ®錠は、1日1回、朝食の前か後に、50mgを飲んでください。

効果不十分な患者さんには、医師の判断により1日1回100mgまで増量する場合があります。

- 服薬の時間や方法、服薬する量は、医師の指示に従ってください。
- 自分の判断で変更すると、お薬の効果がかわったり、副作用が起こる危険があります。

飲み忘れた場合は?

忘れた分を飲まずに、翌日の朝に1回分を飲んでください。

! 絶対に2回分を一度に飲んではいけません。医師に指示された量よりも多く飲むことは絶対に避けてください。

誤って多く飲んだ場合は?

低血糖症状に注意してください。
誤って多く飲んだことを医師または薬剤師に告げて、指示に従って対処してください。

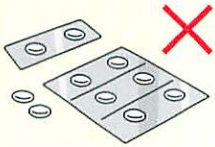
血糖値のコントロールが良好な場合は?

血糖値のコントロールが良好な場合などでも、自分の判断では服薬を中止せず、医師の指示に従って服薬してください。

風邪など他の病気にかかった場合は?

風邪など他の病気にかかったときには、血糖値が上がりやすくなります。
また、食欲不振や嘔吐などで通常の食事がとれず、栄養不良となって血糖値が低下することもあり、血糖値のコントロールが困難になる場合があります。
病気になったときは、次のように対処してください。

- 早めに主治医に連絡し、相談する。
- 下痢・嘔吐をくり返したり、食欲不振で食事や水分をとれないことが続くような場合は、スーグラ®錠の服薬は中止する。



- 無理をせず、温かく安静にする。
- 可能な限り、いつもの食事や水分をとる。
- 病状をこまめにチェックし、(可能であれば)血糖自己測定を3～4時間ごとに行う。
- お薬の量や服薬回数は自分の判断でかえずに、医師に相談する。

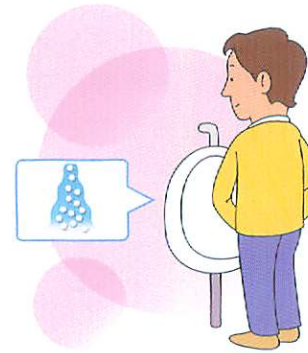
まとめ

スーグラ®錠の作用機序と主な注意点

（注意点の詳細はp5～12をご参照ください）

作用機序

スーグラ®錠は、
血液中の過剰な糖を
尿といっしょに排出させることで
血糖値を下げるお薬です。



主な注意点

- **脱水にご注意ください。**
  脱水にならないように、スーグラ®錠の服薬中はお薬を飲む前よりも多めに水分をとりましょう。
- **低血糖の症状に注意してください。**
- **尿路感染症、性器感染症に注意してください。**
  感染症予防のために体を清潔に保ちましょう。

astellas
アステラス製薬株式会社

KOTOBUKI

公益社団法人 日本糖尿病協会検証済

('18年4月印刷)KYO-KI
SGL20001A05